

## 果物を食べられる幸せ

広島県広島市立大町小学校

六年 増田 陽太

朝、新聞を見ていた僕がある記事を発見した。内容は、毎朝果物を食べるか食べないかのアンケート結果だ。「はい・いいえ」と答えた人の割合と理由がのっている。すると父が、母に果物を食べない人の一番の理由は何かと質問した。「値段が高いからだと思う。」と母は答えた。見事に大正解だ。僕はこの結果に少し驚いた。僕の家ではりんごやキウイなど、旬の果物を毎朝出してくれる。高くても体に良い事や何より旬を感じて欲しいと母は言っていた。僕の家では、果物がとても身近な存在なのだ。今年の十月。家族で果物狩りに行った。その農園では自分の好きな果物を好きなだけとれる。その日はりんごとぶどう、いちぢくをとった。中でも一番印象に残っているのはりんご狩りだ。いろんな種類の木があり、それぞれ見た目や大きさが違う。濃い色の物や大きい物を選んで自分で取る。スパーでは見られない、初めて見る品種もあった。家族で相談して取っていると、あっという間に五種類取れた。でも種類一つ一つ育て方が違ったりするのになぜ同じ場所でこんないろんな種類のりんごを作る事ができるのだろう。ふと僕は不思議に思った。違う木が真横にあるのに別の花粉がついたりしないのか。それでも種類が混ざらないのは、まさに職人技だ。僕は、農園の人はすごいなあとりんごを見てつくづく思った。そして食べ比べることにした。酸味が強かったり、蜜がたくさん入っていたり、それぞれ個性がありとても美味しかったので、満足できた。こんな美味しい物を普段食べる事ができるのは、作ってくれる農家の人のおかげだ。副読本を読んで、りんごやみかんを一つ一つ手作業で摘果したり選定したり、ていねいに作られている事を改めて知った。農園で作業している人を見ると、みんなてきぱきと動き回っていた。果物一つ一つには、農家の人の努力と技術が詰まっている。これからは今まで以上に農家の人と、果物を食べる事ができる幸せに感謝の気持ちを持ちたい。今回農園に行っても大切なことを学んだ。